中高生アスリート、全国・世界へ！

宮津天橋高校加悦谷学舎の長島和奏さん（3年／ウエイトリフティング部）が、10月6日に中華人民共和国で開催された「第19回アジア競技大会」に出場。また、12月上旬にはカタールで開催される「2023IWF グランプリⅡ」に出場予定で、パリオリンピックをめざす長島さんにとって重要な大会となります。

同学舎の下村愛里さん（3年／ウエイトリフティング部）は、11月22、23日に佐賀県で開催される「レディースカップ第15回全日本女子選抜ウエイトリフティング大会」に出場予定で優勝をめざします。

同校宮津学舎の堀大志さん（1年）は、10月20～22日に愛媛県で開催された「JOCジュニアオリンピックカップ第54回U16陸上競技大会」の男子三段跳に出場しました。

橋立中学校の日下部惺さん（1年）は、6月に南丹市で開催された「2023ジュニア全日本自転車競技選手権大会ロードバイク男子U15（51.5㎞）」に出場しました。

長島 和奏さん

下村 愛里さん

日下部 惺さん

堀 大志さん

長島 和奏（ながしま わかな）さん（江陽中出身）

- 第19回アジア競技大会
  ウエイトリフティング競技女子87㎏級 トータル7位
- 2023IWF グランプリⅡ 女子81㎏級 ※出場予定

女子81㎏級の日本記録（トータル、クリーン＆ジャーク）を保持する長島さん。10月に開催されたアジア競技大会では連戦が続く中、思うように記録が伸びず、大会後、一から体づくりに励んできました。12月に開催される2023IWF グランプリⅡは、2024年のパリオリンピック出場をめざすうえで重要な大会となり、「これまでの成果を発揮し、一歩でもオリンピック選考に近づけるよう頑張りたい」と力強く意気込みを話してくれました。

下村 愛里（しもむら あいり）さん（加悦中出身）

- レディースカップ第15回全日本女子選抜ウエイトリフティング大会　女子71㎏級（高校の部）※出場予定

中学校から本格的に競技を始めた下村さん。今年のインターハイでは、惜しくも3連覇を逃すも見事2位という結果を残しました。11月末に出場するレディースカップに向けて「ライバルがいるが、トータル・スナッチ・クリーン＆ジャークともに優勝をめざします」と抱負を話しくれました。

日下部 惺（くさかべ せい）さん

- 2023ジュニア全日本自転車競技選手権大会
  ロードバイク男子U15（51.5㎞）　出場

「何よりスピード感が好き」と目を輝かせながらロードバイクの魅力を話す日下部さん。中学校ではバスケットボール部に所属しながら、自宅で筋トレとアプリケーションのサイクルトレーニングプログラムをこなす日々を送っています。今後は「来年の全日本では良い成績を残したい。将来はヨーロッパで活躍できる選手になることが夢です」と力強く目標を話してくれました。

堀 大志（ほり たいし）さん（江陽中出身）

- JOCジュニアオリンピックカップ
  第54回U16陸上競技大会 男子三段跳び　出場

陸上との出会いは、地域の方が実施している陸上教室。中学校から本格的に競技を始め、迎えた初の全国大会は全国の強豪がひしめくジュニアオリンピック。大会を振り返り「満足できる結果ではなかったが、全国で経験したことを今後の陸上生活にいかしていきたい」と話しくれました。

よさの人 Vol.59

梅田 幸輔さん

近畿ブロック商工会青年部主張大会
優秀賞　※京都府代表

「できれば都会で働き続けたかった――」。当時の心境を話してくれたのは、有限会社梅徳機業場（岩滝）5代目の梅田幸輔さん。

7年前、32歳のときに与謝野町にUターンで戻り、大正時代から続く家業の織物業を継いだ。丹後ちりめんが衰退産業とささやかれる中、厳しい現状を目の当たりした。1973（昭和48）年に約1000万反に迫る生産数を誇っていた丹後ちりめんは、約20万反にまで生産数を落としていた現状にがく然とした。

「なんで帰って来たんだろう…」。自問自答する日々が続いた。孤独を感じながら仕事をしている中、支えになったのは与謝野町商工会青年部に所属している同業の同世代メンバーの存在だった。同じ境遇の中、丹後ちりめんの仕事にほこりを持ち、ひたすらに頑張るメンバーの姿に「勇気づけられ、元気づけられた。もう一回この環境で頑張ってみようと思えるようになった」と梅田さん。

織り上がっていく生地を見つめる梅田さん

同世代メンバーの頑張っている姿に勇気づけられ、今の僕がある。

また、与謝野町の事業でかかわった「ひらく織」も、織物に向き合うきっかけに。同業の同世代メンバーと全国の織物産地におもむき、さまざまな技術や知識を得たほか、オリジナル商品「てぬぐい」の開発にも取り組み、メンバーの技術を結集し販売にまでこぎつけた。実際に店舗におもむき、消費者に直接紹介することで多くの気づきが得られ、自社の新商品開発にも積極的に取り組めるようになった。

40歳を迎え、与謝野町商工会青年部長で整経所を営む今井信一（いまいしんいち）さんから「青年部の主張発表大会に出場してほしい」と依頼を受けた。とまどいもあったが、織物への思いを伝えようと腹を決めた。

京都府大会を勝ち抜き、9月14日、大阪市で開催された「近畿ブロック商工会青年部主張発表大会」に出場。「地場産業への思い」と題して、Uターン時の葛藤（かっとう）や支え合いながら切磋琢磨してきたメンバーへの思いを詰め込んだ。

僕の使命は、丹後ちりめんの衰退を心配することではなく、感動してもらう商品を作ること。

結果は、7人中2番目となる優秀賞を獲得。「文章を考えたり練習などつらいこともあったが、それ以上にこんな自分の発表でも評価されて自信になった。これからも丹後ちりめんの発展、地域の発展のために自分の思いを伝えていきたい」。

やるからには丹後で一番の機屋をめざす。梅田さんの挑戦は続く。

- うめだ こうすけ　1983年生まれ　岩滝在住
  大正時代から続く有限会社梅徳機業場の5代目。帯揚げを中心とした和装小物の白生地の製造・販売を行う。